

令和5・6年度調査研究事業

8020の実態把握に関する  
パイロット調査実施報告書

2025年3月21日

公益財団法人8020推進財団

## 調査研究実施者

### 研究責任者

小林 慶太 (公財) 8020 推進財団副理事長  
(8020 推進財団 調査研究事業等検討会作業委員会委員長)

### 研究者

小玉 剛 (公財) 8020 推進財団専務理事

山本 秀樹 (公財) 8020 推進財団常務理事

上條 英之 東京歯科大学歯科社会保障学客員教授  
(8020 推進財団嘱託)

天野 敦雄 大阪大学大学院歯学研究科予防歯科学講座特任教授  
(8020 推進財団 調査研究事業等検討会作業委員会副委員長)

高柳 篤史 東京歯科大学衛生学講座客員教授  
(8020 推進財団 調査研究事業等検討会作業委員会委員)

鈴木誠太郎 目白大学短期大学部歯科衛生学科専任講師  
(8020 推進財団 調査研究事業等検討会作業委員会委員)

### 倫理申請

本研究は日本歯科医学会研究倫理審査会に承認申請し、2024 年 4 月 12 日付けで承認された。

## 目 次

1. 本調査の目的…………… P 2
2. 調査の方法…………… P 2
3. 結果の概要…………… P 3
4. 考察…………… P 7
5. 参考文献…………… P10
6. 調査結果各データ表…………… P11

資料 1 調査に使用した入力フォーム

資料 2 調査協力依頼および調査協力申込書

資料 3 申し込みはがきの返信状況

資料 4 各検査センター会場ごとの割り振り状況および健診医の出動数

## 1. 本調査の目的

本調査の目的は、80歳における歯・口腔内の状態を明らかにするため、全国での調査を検討するにあたって、千葉県柏市と柏歯科医師会の協力を得て、80歳の者に対するパイロット調査を実施するものである。

8020運動は1989年に厚生省（当時）の検討会にて提言されたことをきっかけに開始され、日本歯科医師会が推進役となり既に30年以上が経過した。2022年歯科疾患実態調査の結果によると、8020達成者は51.6%と推計され80歳の約半数は8020を達成している。

しかしながら歯科疾患実態調査の対象者は2022年国民生活基礎調査で設定された地区から抽出した300地区内の世帯の満1歳以上の世帯員で口腔内診査を受診した者であり、比較的に自立をしている高齢者が多く含まれていると推察される。人口に占める高齢者の割合が増えてきていることから、要介護の高齢者が増える傾向にあり、現在の歯科疾患実態調査の実施方法からみて、要介護の高齢者等は、歯科疾患実態調査に参加していない可能性が非常に高いと推察される。このほか、いままでの歯科疾患実態調査では、8020割合が調査を重ねるごとに継続して増加傾向となっていたが、2016年と2022年の調査を比較すると、80歳で現在歯が20歯以上ある者の割合（いわゆる8020割合）は、ほぼ横ばいを示している。前述の通り要介護の高齢者が含まれていない可能性が高いため、実態と異なる可能性が推察される。

千葉県の北西部に位置する柏市は、総人口437,390人（2024/10/1時点）で市川市に次いで県内第5位の人口規模である。65歳以上人口は113,757人（26.0%）であり、我が国の65歳以上人口割合である29.3%（2024/9/15時点）と近似している。

そこで本調査では、国のデータの実状把握の一環として、柏市に限定されるものの、我が国の80歳での歯・口の詳細な状況把握のための参考資料を得ることを目的として実施した。

## 2. 調査の方法（資料1～4）

調査対象は柏市在住で1944年1月1日から12月31日までに生まれた者（満80歳）の4,753人を対象とした。

柏市の協力により、2024年3月1日現在の住民基本台帳から柏市から委託を受けた業者が対象者を特定し、往復はがきを郵送することで調査への参加協力を依頼した。その後返信はがきによる申し込みを実施し、会場にて同意を取得した。口腔内診査および質問紙調査を実施する会場へ自力で移動できない対象者については、参加協力の同意が得られる場合に限り下記の対応を行った。

### ・自力で口腔内診査会場へ移動できる場合

柏市の協力歯科医院もしくは研究者が設置する口腔内診査会場（検査センター）で研究実施者および柏歯科医師会に所属する歯科医師による調査を実施した。

### ・自力で口腔内診査会場へ移動できない場合

対象者の家族または介護サービスを実施している介護事業所等に協力を仰ぎ、研究実施者あるいは柏歯科医師会の歯科医師が対象者の自宅または施設へ訪問して調査を実施した。

口腔内診査による調査項目は、性別、歯の状態、動揺度、口腔清掃状況、根面う蝕の有無（未処置根面う蝕）、歯肉出血、口腔乾燥とした。問診による調査項目は自己申告の歯の本数、義歯使用の有無、口腔機能（咀嚼、むせ、口渇、滑舌）、ADL、生活背景（居住形態、要介護度）とした。対象者の認知機能に低下を認める場合は、介助者等から回答を得た。

また、調査実施前に必携を作成した上で協力歯科医師等に対して説明会を実施し、診査基準の統一を図った。

調査の実施にあたってはPC、スマートフォン、タブレットによるWeb入力記録を原則とし、通信環境が整わない状況においては、記録用紙にて内容を記録し、後日Web入力を行った。

本調査の実施時期は2024年6月中旬から8月中旬とした。

### 3. 結果の概要

#### 1) 受診状況について

受診者数は442名（男性229名、女性213名）、受診率は9.3%であった。検査会場別の割合は、検査センター165名（37%）、個人診療所262名（59%）、施設4名（1%）、自宅7名（2%）、病院4名（1%）であった。（表1）

介護の状況の男女別では、男性で自立している者は221名（96.5%）、要支援（1～2）は3名（1.3%）、要介護（1～5）は5名（2.2%）であった。女性で自立している者は193名（90.6%）、要支援（1～2）は14名（6.6%）、要介護（1～5）は6名（2.8%）であった。（表2）

介護の状況の検査会場別では、検査センターで自立している者は154名（93.3%）、個人診療所251名（95.8%）、施設3名（75%）、自宅2名（28.6%）、病院4名（100%）であった。（表3）

#### 2) 8020達成率について

今回の調査における8020達成率は、81.7%（361/442名）であった。性別による達成率は、男性79%（181/229名）、女性85%（180/213名）であった。（表4）

検査会場所別の達成率では、検査センター91%（150/165名）、個人診療所77%（201/262名）、施設100%（4/4名）、自宅43%（3/7名）、病院75%（3/4名）となった。（表5）

#### 3) 検査項目別の口腔内状況

##### 【現在歯数】

##### ① 現在歯数について

平均±標準偏差は23.2±6.3本であった。男女別では男性で22.7±7.1本、女性で23.6±5.2本で、女性の方が現在歯数は多かった。（表6）

介護状況別では、自立している者は23.2±6.2本、要支援（1～2）は23.2±6.4本、要介護（1～5）は20.8±9.3本であった。（表7）

検査会場別では、検査センターで24.4±5.4本、個人診療所で22.6±6.2本、施設で

25.5±2.1本、自宅で12.4±13.8本、病院で24.8±6.4本であった。(表8)

## ② 現在歯数が20歯以上の割合について

8020達成率で記載のように、現在歯数が20歯以上の者は361名(81.7%)であり、男性では181名(79%)、女性では180名(84.5%)であった。(表4)

介護状況別では、20歯以上の者は自立している者では337名(81.4%)、要支援(1～2)では15名(88.2%)、要介護(1～5)では9名(81.8%)であった。(表9)

検査会場別では、20歯以上の者は検査センターでは150名(90.9%)、個人診療所では201名(76.7%)、施設では4名(100%)、自宅で3名(42.9%)、病院で3名(75.0%)であった。(表5)

## 【歯の状態】

健全歯数(平均±標準偏差)は10.1±6.5本、未処置歯数は0.6±1.2本、処置歯数は12.4本±5.9本、根面う蝕数は0.3±0.8本であった。男女別では、男性で健全歯数は11.0±7.1本、未処置歯数は0.7±1.2本、処置歯数が11.0±5.9本、根面う蝕数が0.4±0.9本であった一方、女性で健全歯数は9.2本±5.7本、未処置歯数は0.5±1.2本、処置歯数は13.9±5.5本、根面う蝕数は0.2±0.8本であった。(表10)

介護状況別では、自立している者で健全歯は10.3±6.5本、未処置歯は0.5±1.0本、処置歯は12.3±5.8本、根面う蝕は0.3±0.7本、要支援(1～2)で健全歯は8.2±5.4本、未処置歯は0.9±1.4本、処置歯は14.1±5.8本、根面う蝕は0.5±1.3本、要介護(1～5)で健全歯は5.5±6.9本、未処置歯は2.6±3.1本、処置歯は12.7±8.5本、根面う蝕は1.5±2.3本であった。(表11)

検査会場別では、検査センターで健全歯は11.8±6.9本、未処置歯は0.7±1.3本、処置歯は11.9±5.8本、根面う蝕は0.4±0.9本、個人診療所で健全歯は9.1±6.0本、未処置歯は0.5±1.0本、処置歯は13.0±5.8本、根面う蝕は0.3±0.7本、施設で健全歯は9.5±3.1本、未処置歯は1.8±2.4本、処置歯は14.3±5.2本、根面う蝕は0.8±1.5本、自宅で健全歯は6.9±8.3本、未処置歯は1.4±2.6本、処置歯は4.1±5.5本、根面う蝕は0.9±1.9本、病院で健全歯は13.0±10.0本、未処置歯は0.0±0.0本、処置歯は11.8±7.0本、根面う蝕は0.0±0.0本であった。(表12)

根面う蝕の罹患状況と口腔清掃状態の関係については、口腔清掃状態が良好な者で0.19±0.75本、普通な者で0.29±0.70本、不良な者で1.17±1.56本であった。(表13)

男女別では、男性において口腔清掃状態が良好な者で0.32±1.02本、普通な者で0.28±0.68本、不良な者で1.00±1.10本であった一方、女性では口腔清掃状態が良好な者で0.09±0.34本、普通な者で0.29±0.73本、不良な者で1.56±2.35本であった。(表14)

根面う蝕と口腔乾燥の関係については、口腔乾燥が軽度な者で0.63±1.27本、なしの者で0.21±0.63本であった。(表15)

男女別では、男性において口腔乾燥が軽度な者で  $0.78 \pm 1.40$  本、なしの者で  $0.26 \pm 0.68$  本であった一方、女性では口腔乾燥が軽度な者で  $0.52 \pm 1.16$  本、なしの者で  $0.15 \pm 0.55$  本であった。(表 16)

#### 【咬合支持および欠損歯列のリスク診断の状態】

アイヒナー分類の比率（形態）では、A2 の者が最も多かった。(表 17)

アイヒナー分類の比率（機能）も同様に、A2 の者が最も多かった。(表 18)

咬合三角による欠損歯列の状況では、第 1 エリアの者が最も多かった。(表 19)

#### 【口腔清掃状態】

口腔内清掃状態は、良好が 195 名 (44.1%)、普通が 217 名 (49.1%)、不良が 30 名 (6.8%) であった。男女別では、男性で良好が 91 名 (39.7%)、普通が 117 名 (51.1%)、不良が 21 名 (9.2%)、女性で良好が 104 名 (48.8%)、普通が 100 名 (46.9%)、不良が 9 名 (4.2%) であった。(表 20)

介護状況別では、自立している者で良好が 184 名 (44.4%)、普通が 205 名 (49.5%)、不良が 25 名 (6.0%)、要支援 (1~2) の者で良好が 9 名 (52.9%)、普通で 7 名 (41.2%)、不良で 1 名 (5.9%)、要介護 (1~5) の者で良好が 2 名 (18.2%)、普通が 5 名 (45.5%)、不良が 4 名 (36.4%) であった。(表 21)

検査会場別では、検査センターで良好が 96 名 (58.2%)、普通が 64 名 (38.8%)、不良が 5 名 (3.0%)、個人診療所で良好が 97 名 (37.0%)、普通が 145 名 (55.3%)、不良が 20 名 (7.6%)、施設で良好が 2 名 (50.0%)、普通が 1 名 (25.0%)、不良が 1 名 (25.0%)、自宅で良好が 0 名 (0.0%)、普通が 4 名 (57.1%)、不良が 3 名 (42.9%)、病院で良好が 0 名 (0.0%)、普通が 3 名 (75.0%)、不良が 1 名 (25.0%) であった。(表 22)

#### 【歯肉出血】

歯肉出血は、ありの者が 87 名 (19.7%) であった。男女別では、男性でありの者が 49 名 (21.4%)、女性で 38 名 (17.8%) であった。(表 23)

介護状況別では、自立している者でありの者が 78 名 (18.8%)、要支援 (1~2) の者が 5 名 (29.4%)、要介護 (1~5) の者が 4 名 (36.4%) であった。(表 24)

検査会場別では、検査センターでありの者が 9 名 (5.5%)、個人診療所で 73 名 (27.9%)、施設で 1 名 (25.0%)、自宅で 3 名 (42.9%)、病院で 1 名 (25.0%) であった。(表 25)

#### 【口腔乾燥】

口腔乾燥は、軽度の者が 101 名 (22.9%) であった。男女別では、男性で軽度の者が 45 名 (19.7%)、女性で 56 名 (26.3%) であった。(表 26)

介護状況別では、自立している者で軽度の者が87名(21.0%)、要支援(1~2)の者が7名(41.2%)、要介護(1~5)の者が7名(63.6%)であった。(表27)

検査会場別では、検査センターで軽度の者が44名(26.7%)、個人診療所で53名(20.2%)、施設で2名(50.0%)、自宅で1名(14.3%)、病院で1名(25.0%)であった。(表28)

#### 4) 問診による調査項目

##### 【義歯の使用状況】

義歯の使用状況は、義歯を使用している者は189名(42.8%)、義歯を作成していない者が234名(52.9%)、義歯を作成したが使用していない者が19名(4.3%)であった。男女別では、男性で義歯を使用している者は112名(48.9%)、女性で77名(36.2%)であった。(表29)

8番欠損およびブリッジにて全ての欠損部位が補綴されている者を除外した上で、解析対象者を欠損歯のある者327名(全体の74.0%)に限定した結果、義歯を使用している者は188名(57.5%)、義歯を作製していない者が122名(37.3%)、義歯を作製したが使用していない者が17名(5.2%)であった。男女別では、男性で義歯を使用している者は112名(66.3%)、女性で76名(48.1%)、義歯を作製したが使用していない者は男性で52名(30.8%)、女性で70名(44.3%)、義歯を作製していない者は男性で5名(3.0%)、女性で12名(7.6%)であった。(表30)

##### 【咀嚼の状況】

咀嚼の状況は、半年前に比べて固いものが食べにくくなったと答えた者は57名(12.9%)であった。男女別では、男性で28名(12.2%)、女性で29名(13.6%)であった。(表31)

##### 【むせの状況】

むせの状況は、お茶や汁物等でむせることがあると答えた者は94名(21.3%)であった。男女別では、男性で40名(17.5%)、女性で54名(25.4%)であった。(表32)

##### 【口渇の状況】

口渇の状況は、口の渇きが気になると答えた者は124名(28.1%)であった。男女別では、男性で53名(23.1%)、女性で71名(33.3%)であった。(表33)

##### 【滑舌の状況】

滑舌の状況は、普段の会話で、言葉をはっきりと発言できないことがあると答えた者は57名(12.9%)であった。男女別では、男性で38名(16.6%)、女性で19名(8.9%)であった。(表34)

#### 【外出の状況】

外出の状況は、一人で外出することができる者と答えた者は411名（93.0%）であった。男女別では、男性で213名（93.0%）、女性で198名（93.0%）であった。（表35）

#### 【寝たきりの状況】

寝たきりの状況は、日中のほとんどをベッドの上で過ごしていると答えた者は4名（0.9%）であった。男女別では、男性で1名（0.4%）、女性で3名（1.4%）であった。（表36）

#### 【居住形態】

居住形態は、夫婦二人が243名（55.0%）、一人暮らしが60名（13.6%）、介護施設が3名（0.7%）、子供と同居が127名（28.7%）、その他が9名（2.0%）であった。男女別では、男性で夫婦二人が147名（64.2%）、一人暮らしが11名（4.8%）、介護施設が1名（0.4%）、子供と同居が64名（27.9%）、その他が6名（2.6%）、女性で夫婦二人が96名（45.1%）、一人暮らしが49名（23.0%）、介護施設が2名（0.9%）、子供と同居が63名（29.6%）、その他が3名（1.4%）であった。（表37）

### 4. 考 察

#### 【咬合支持および欠損歯列のリスク診断に関して】

2016年の歯科疾患実態調査にて、8020達成率が50%を超えた当時から、現在歯数と咬合の状態についての分析の必要性が言われてきた。

そこで今回は、全調査群における咀嚼機能の状況の指標となる咬合支持様式と今後の咬合崩壊の予後予想となる欠損歯列のリスクについて解析を行った。

咬合支持の状況についてはアイヒナー分類、欠損歯列のリスク診断には宮地の咬合三角を用いている。

#### ① アイヒナー分類（咬合支持様式）についての分析結果

全調査群においてアイヒナー分類による判定結果は（表17）となった。

臼歯部咬合支持がほぼ維持されている、アイヒナーA1・2・3（55%）とアイヒナーB1・2・3（34%）の割合は全体の89%となり、全体の約9割が咬合支持を維持している結果となった。これは8020達成率の81.7%を上回る数値であり、20本以上歯が残っていない対象者においても、その内半数は臼歯部の咬合支持を維持している結果となり、咀嚼機能が維持されていると判断出来る。

また、本調査では臼歯部咬合支持に関わる歯の動揺度を考慮した機能的な分析も行っている。



すなわち、臼歯部の咬合支持に関わる歯の動揺度が+2の場合は機能が不十分とし、欠損と同様に咬合支持に関わらないと判定して分析した結果は（表18）となった。

この機能的判定結果をみても、A1～B3の占める割合は89%と変わらず、動揺度を考慮しても、現在歯が十分機能していることが読み取れた。

したがって、調査実施群の約9割において咀嚼機能が十分に維持されていることを確認することができた。

## ② 欠損歯列のリスク予想について

宮地の咬合三角に調査結果のデータをプロットし欠損歯列のリスク診断を行った。（表19）

各エリアの分布割合をみると、欠損リスクの少ない第1エリアが最多の72%となり、調査群の約7割において咬合支持が安定しており、欠損拡大リスクが少ないと診断することができる。

また、適切な咬合回復を行う事で咬合維持が可能と判断される第2エリアは18%であった。一方、咬合崩壊の進行が危惧される第3エリアは4%と少ないことから、今回の全調査群における欠損歯列のリスク予想において、今後も適切な処置を行えば9割の方が予後は良好と判断された。

以上、咬合支持と欠損歯列のリスクについて解析を行ったところ、今回の調査実施群においては、両解析の結果から極めて良好な状態であることが分かった。

## 【概要】

本調査の結果、8020達成者は81.7%であり、2022年歯科疾患実態調査の結果である51.6%と比較すると、30%近く達成者の割合は高かった。我が国において、現在歯数に関して都道府県格差があることが報告されており、平成28年「国民健康・栄養調査」を用いた結果の分析では、現在歯数に関する指標は政令都市において良好だった一方、人口規模が小さい自治体においては不良だったことが報告されている。※参考文献[1] この報告では75歳から84歳の者を合わせて「80歳」としていることに注意が必要だが、全体での80歳で20本以上の現在歯数を持つ者の割合は38.8%であった一方、本研究の対象である千葉県では50.0%であったとしている。この結果と比較しても、本研究の8020達成者の割合は30%程度高かった。

本研究の目的は要介護者等を含めた80歳における口腔状態を把握することであったが、検査センターと個人診療所で検査を受けた者が96%を占めており、検査会場へ自力で来場できる高齢者がほとんどであった。また、介護の状況を見ても自立している者が94%を占めており、要支援（1～2）の者は4%、要介護（1～5）の者は2%であった一方、柏市全体の80歳における介護認定率は15.4%（2024/03/01時点）であることから、本調査の結果は比較的健康な高齢者に偏っていると考えられる。今回のパイロット調査では、多様な生活状況と身体的バイアスとなる介護が必要な高齢者も含めた実態を把握する調査

を実施すべく、住民基本台帳を基に柏市から委託を受けた業者が対象者を特定し、往復はがきを郵送することで調査への参加協力を依頼した。しかしながら、介護状況も含めて認知機能が低下している対象者においては、返信はがきによる申し込みができていなかった可能性があるため、今後同様の調査を実施する際には参加協力の依頼方法を検討する必要があると思われる。

また、自治体の規模も含めた調査対象の地域性、高齢化率等の違いによる検証も進めるべきであろう。

#### [謝辞]

8020推進財団として、初めて80歳における歯科横断調査を実施したことは大変意義があり、今回のパイロット調査実施に際しご理解ご協力いただいた、すべての関係各位に対し深甚なる謝意を表します。

特に、柏市の太田和美市長、柏市保健医療部吉田みどり理事ならびに関係職員、一般社団法人柏歯科医師会の中山宙久会長を始めとする会員、事務局の皆様にご心から感謝申し上げます。

#### [解説資料]

##### ① (アイヒナー分類の解説)

Eichnerによって提唱された咬合支持の分類

左右の小臼歯部および大臼歯部の4つの咬合支持域の状況で分類され、それぞれの領域に安定した咬合支持域が存在するかで、A・B・Cの3つの群に分ける。さらに、A群はA1~3、B群はB1~4、C群はC1~3と各レベルに分類。

#### 特徴

- ・この分類は、全歯残存から無歯顎に至る歯列の関係を考慮している。
- ・上下顎の左右の大・小臼歯群による4つの咬合支持域の残存状態を基本に行われる。
- ・歯群の一部の歯が欠損していても、上下顎の接触がある限りは支持域の存在を認める。
- ・咬合支持能力の度合いを示している。

#### 分類型

A群 4つの咬合支持域を全て持つもの

A1: 欠損が無く咬合支持が得られている状態

A2: 上下顎のうち1顎に歯の欠損がある状態

A3: 上下顎ともに歯の欠損がある状態

B群 4つ全ての咬合支持域のどこかが失われた状況

B1：3つの支持域がある状態

B2：2つの支持域を持つ状態

B3：1つの支持域のみ持つ状態

B4：臼歯の支持域を全て喪失し前歯部のみに咬合接触がある状態

C群 上下顎の接触による咬合支持がないもの

C1：上下顎に現在歯はあるがすれ違い咬合が行われる状態

C2：上下顎のうち1顎が無歯顎である状態

C3：上下顎ともに無歯顎である状態

② (宮地が1981年に発表した欠損歯列の分類解説) ※参考文献[2]

上下顎の現存歯数(28~0歯)と咬合支持数(14~0カ所)から、欠損歯列を4つのエリアに分けて、欠損歯列の病態レベルを評価・スクリーニングする方法。

各エリアの定義と特徴

第1(咬合欠損)エリア：咬合支持数10以上、咬合支持が安定しており欠損拡大のリスクが小さい。

第2(咬合欠陥)エリア：咬合支持数5~9。歯の喪失が進行、咬合支持も減少し、歯列が不安定になった段階。的確な対応がなされないとさらなる崩壊を起こす。

第3(咬合崩壊)エリア：現存歯数10~18、咬合支持数4以下。歯列条件が悪く、対応がきわめて難しい。

第4(咬合消失)エリア：現存歯数10未満、咬合支持数4以下。現存歯列・咬合支持数とも減少した少数歯残存症例。一般的には上下顎の力学的不均衡の度合いがやや緩和されている。

## 5. 参考文献

[1] 国民健康・栄養調査結果からみた成人・高齢期における現存歯数の地域間格差, 福田英輝、田野ルミ、大島克郎、三浦宏子, 厚生労働科学研究費補助金(地域医療基盤開発推進研究事業)「歯科口腔保健の推進に関する基本的事項」最終評価と次期計画策定に資する全国データの収集と歯科口腔保健データの動向分析令和4年度 分担研究報告書

[2] 欠損歯列の臨床評価と処置方針 宮地建夫 著 (医歯薬出版 1998.1)

6. 調査結果各データ表

表1 受診者の概要（単位：名）

	男性	女性	総計
検査センター	78	87	165
個人診療所	142	120	262
施設	1	3	4
自宅	4	3	7
病院	4	0	4
総計	229	213	442

表2 男女別の介護状況

	介護を受けて いない(自立)	要支援 (1~2)	要介護 (1~5)	総計
男	221名	3名	5名	229名
	96.5%	1.3%	2.2%	100%
女	193名	14名	6名	213名
	90.6%	6.6%	2.8%	100%
総計	414名	17名	11名	442名
	93.7%	3.8%	2.5%	100.0%

表3 検査会場別の介護状況

	介護を受けて いない（自立）	要支援 （1～2）	要介護 （1～5）	総計
検査センター	154名	8名	3名	165名
	93.3%	4.8%	1.8%	100.0%
個人診療所	251名	8名	3名	262名
	95.8%	3.1%	1.1%	100.0%
施設	3名	0名	1名	4名
	75.0%	0.0%	25.0%	100.0%
自宅	2名	1名	4名	7名
	28.6%	14.3%	57.1%	100.0%
病院	4名	0名	0名	4名
	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
総計	414名	17名	11名	442名
	93.7%	3.8%	2.5%	100.0%

表4 男女別の20本以上の現在歯数を持つ者

	20本未満	20本以上	総計
男	48名	181名	229名
	21.0%	79.0%	100.0%
女	33名	180名	213名
	15.5%	84.5%	100.0%
総計	81名	361名	442名
	18.3%	81.7%	100.0%

表5 検査会場別の20本以上の現在歯数を持つ者

	20本未満	20本以上	総計
検査センター	15名	150名	165名
	9.1%	90.9%	100.0%
個人診療所	61名	201名	262名
	23.3%	76.7%	100.0%
施設	0名	4名	4名
	0.0%	100.0%	100.0%
自宅	4名	3名	7名
	57.1%	42.9%	100.0%
病院	1名	3名	4名
	25.0%	75.0%	100.0%
総計	81名	361名	442名
	18.3%	81.7%	100.0%

表6 男女別の平均現在歯数（単位：本）

	平均値	標準偏差
男	22.7	7.1
女	23.6	5.2
総計	23.2	6.3

表7 介護状況別の平均現在歯数（単位：本）

	平均値	標準偏差
介護を受けていない（自立）	23.2	6.2
要支援（1～2）	23.2	6.4
要介護（1～5）	20.8	9.3

表 8 検査会場別の平均現在歯数（単位：本）

	平均値	標準偏差
検査センター	24.4	5.4
個人診療所	22.6	6.2
施設	25.5	2.1
自宅	12.4	13.8
病院	24.8	6.4

表 9 介護状況別の 20 本以上の現在歯数を持つ者

	20 本未満	20 本以上	総計
介護を受けていない（自立）	77 名	337 名	414 名
	18.6%	81.4%	100.0%
要支援（1～2）	2 名	15 名	17 名
	11.8%	88.2%	100.0%
要介護（1～5）	2 名	9 名	11 名
	18.2%	81.8%	100.0%
総計	81 名	361 名	442 名
	18.3%	81.7%	100.0%

表 10 男女別の歯の状態（単位：本）

		健全歯	未処置歯	処置歯	根面う蝕
男	平均値	11.0	0.7	11.0	0.4
	標準偏差	7.1	1.2	5.9	0.9
女	平均値	9.2	0.5	13.9	0.2
	標準偏差	5.7	1.2	5.5	0.8
総計	平均値	10.1	0.6	12.4	0.3
	標準偏差	6.5	1.2	5.9	0.8

表 1 1 介護状況別の歯の状態（単位：本）

		健全歯	未処置歯	処置歯	根面う蝕
介護を受けていない（自立）	平均値	10.3	0.5	12.3	0.3
	標準偏差	6.5	1.0	5.8	0.7
要支援（1～2）	平均値	8.2	0.9	14.1	0.5
	標準偏差	5.4	1.4	5.8	1.3
要介護（1～5）	平均値	5.5	2.6	12.7	1.5
	標準偏差	6.9	3.1	8.5	2.3

表 1 2 検査会場別の歯の状態（単位：本）

		健全歯	未処置歯	処置歯	根面う蝕
検査センター	平均値	11.8	0.7	11.9	0.4
	標準偏差	6.9	1.3	5.8	0.9
個人診療所	平均値	9.1	0.5	13.0	0.3
	標準偏差	6.0	1.0	5.8	0.7
施設	平均値	9.5	1.8	14.3	0.8
	標準偏差	3.1	2.4	5.2	1.5
自宅	平均値	6.9	1.4	4.1	0.9
	標準偏差	8.3	2.6	5.5	1.9
病院	平均値	13.0	0.0	11.8	0.0
	標準偏差	10.0	0.0	7.0	0.0

表 1 3 口腔清掃状態による根面う蝕の状況

	人数	平均値	標準偏差
良好	195 名	0.19 本	0.75 本
普通	217 名	0.29 本	0.70 本
不良	30 名	1.17 本	1.56 本
総計	442 名	0.31 本	0.84 本



表 1 4 男女別の口腔清掃状態による根面う蝕の状況

	男性			女性		
	人数	平均値	標準偏差	人数	平均値	標準偏差
良好	91名	0.32本	1.02本	104名	0.09本	0.34本
普通	117名	0.28本	0.68本	100名	0.29本	0.73本
不良	21名	1.00本	1.10本	9名	1.56本	2.35本
総計	229名	0.36本	0.891本	213名	0.24本	0.775本

表 1 5 口腔乾燥別の根面う蝕の状況

	人数	平均値	標準偏差
軽度	101名	0.63本	1.27本
なし	341名	0.21本	0.63本
総計	442名	0.31本	0.84本

表 1 6 男女別の口腔乾燥による根面う蝕の状況

	男性			女性		
	人数	平均値	標準偏差	人数	平均値	標準偏差
軽度	45名	0.78本	1.40本	56名	0.52本	1.16本
なし	184名	0.26本	0.68本	157名	0.15本	0.55本
総計	229名	0.36本	0.89本	213名	0.24本	0.78本

表 1 7 アイヒナー分類の比率(形態)

	人数	割合
A1	61名	14%
A2	95名	21%
A3	88名	20%
B1	84名	19%
B2	44名	10%
B3	20名	5%
B4	24名	5%
C1	5名	1%
C2	15名	3%
C3	6名	1%

表 18 アイヒナー分類の比率(機能)

	人数	割合
A1	59 名	13%
A2	96 名	22%
A3	88 名	20%
B1	84 名	19%
B2	44 名	10%
B3	21 名	5%
B4	24 名	5%
C1	5 名	1%
C2	15 名	3%
C3	6 名	1%

表 19 咬合三角の分布

	人数	割合	男性	女性
第 1 エリア	319 名	72%	157 名	162 名
第 2 エリア	81 名	18%	43 名	38 名
第 3 エリア	19 名	4%	12 名	7 名
第 4 エリア	23 名	5%	17 名	6 名

表 20 男女別の口腔清掃状態

	良好	普通	不良	総計
男	91 名	117 名	21 名	229 名
	39.7%	51.1%	9.2%	100.0%
女	104 名	100 名	9 名	213 名
	48.8%	46.9%	4.2%	100.0%
総計	195 名	217 名	30 名	442 名
	44.1%	49.1%	6.8%	100.0%

表 2 1 介護状況別の口腔清掃状態

	良好	普通	不良	総計
介護を受けていない（自立）	184 名	205 名	25 名	414 名
	44. 4%	49. 5%	6. 0%	100. 0%
要支援（1～2）	9 名	7 名	1 名	17 名
	52. 9%	41. 2%	5. 9%	100. 0%
要介護（1～5）	2 名	5 名	4 名	11 名
	18. 2%	45. 5%	36. 4%	100. 0%

表 2 2 検査会場別の口腔清掃状態

	良好	普通	不良	総計
検査センター	96 名	64 名	5 名	165 名
	58. 2%	38. 8%	3. 0%	100. 0%
個人診療所	97 名	145 名	20 名	262 名
	37. 0%	55. 3%	7. 6%	100. 0%
施設	2 名	1 名	1 名	4 名
	50. 0%	25. 0%	25. 0%	100. 0%
自宅	0 名	4 名	3 名	7 名
	0. 0%	57. 1%	42. 9%	100. 0%
病院	0 名	3 名	1 名	4 名
	0. 0%	75. 0%	25. 0%	100. 0%

表 2 3 男女別の歯肉出血の状態

	歯肉出血あり	歯肉出血なし	総計
男	49 名	180 名	229 名
	21. 4%	78. 6%	100. 0%
女	38 名	175 名	213 名
	17. 8%	82. 2%	100. 0%
総計	87 名	355 名	442 名
	19. 7%	80. 3%	100. 0%

表 2 4 介護状況別の歯肉出血の状態

	歯肉出血あり	歯肉出血なし	総計
介護を受けていない（自立）	78 名	336 名	414 名
	18.8%	81.2%	100.0%
要支援（1～2）	5 名	12 名	17 名
	29.4%	70.6%	100.0%
要介護（1～5）	4 名	7 名	11 名
	36.4%	63.6%	100.0%

表 2 5 検査会場別の歯肉出血の状態

	歯肉出血あり	歯肉出血なし	総計
検査センター	9 名	156 名	165 名
	5.5%	94.5%	100.0%
個人診療所	73 名	189 名	262 名
	27.9%	72.1%	100.0%
施設	1 名	3 名	4 名
	25.0%	75.0%	100.0%
自宅	3 名	4 名	7 名
	42.9%	57.1%	100.0%
病院	1 名	3 名	4 名
	25.0%	75.0%	100.0%

表 2 6 男女別の口腔乾燥の状態

	軽度	なし	総計
男	45 名	184 名	229 名
	19.7%	80.3%	100.0%
女	56 名	157 名	213 名
	26.3%	73.7%	100.0%
総計	101 名	341 名	442 名
	22.9%	77.1%	100.0%

表 2 7 介護状況別の口腔乾燥の状態

	軽度	なし	総計
介護を受けていない（自立）	87 名	327 名	414 名
	21.0%	79.0%	100.0%
要支援（1～2）	7 名	10 名	17 名
	41.2%	58.8%	100.0%
要介護（1～5）	7 名	4 名	11 名
	63.6%	36.4%	100.0%

表 2 8 検査会場別の口腔乾燥の状態

	軽度	なし	総計
検査センター	44 名	121 名	165 名
	26.7%	73.3%	100.0%
個人診療所	53 名	209 名	262 名
	20.2%	79.8%	100.0%
施設	2 名	2 名	4 名
	50.0%	50.0%	100.0%
自宅	1 名	6 名	7 名
	14.3%	85.7%	100.0%
病院	1 名	3 名	4 名
	25.0%	75.0%	100.0%

表 2 9 男女別の義歯の使用状況

	使用している	義歯を作製していない	義歯を作製したが、使用していない	総計
男	112 名	111 名	6 名	229 名
	48.9%	48.5%	2.6%	100.0%
女	77 名	123 名	13 名	213 名
	36.2%	57.7%	6.1%	100.0%
総計	189 名	234 名	19 名	442 名
	42.8%	52.9%	4.3%	100.0%

表 3 0 欠損歯を有する者の男女別の義歯の使用状況

	使用している	義歯を作製していない	義歯を作製したが、使用していない	総計
男	112 名	52 名	5 名	169 名
	66.3%	30.8%	3.0%	100.0%
女	76 名	70 名	12 名	158 名
	48.1%	44.3%	7.6%	100.0%
総計	188 名	122 名	17 名	327 名
	57.5%	37.3%	5.2%	100.0%

表 3 1 男女別の咀嚼状況（半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか）

	はい	いいえ	総計
男	28 名	201 名	229 名
	12.2%	87.8%	100.0%
女	29 名	184 名	213 名
	13.6%	86.4%	100.0%
総計	57 名	385 名	442 名
	12.9%	87.1%	100.0%

表 3 2 男女別のむせの状況（お茶や汁物等でむせることがありますか）

	はい	いいえ	総計
男	40 名	189 名	229 名
	17.5%	82.5%	100.0%
女	54 名	159 名	213 名
	25.4%	74.6%	100.0%
総計	94 名	348 名	442 名
	21.3%	78.7%	100.0%

表 3 3 男女別の口渇の状況（口の渇きが気になりますか）

	はい	いいえ	総計
男	53 名	176 名	229 名
	23.1%	76.9%	100.0%
女	71 名	142 名	213 名
	33.3%	66.7%	100.0%
総計	124 名	318 名	442 名
	28.1%	71.9%	100.0%

表 3 4 男女別の滑舌の状況（普段の会話で、言葉をはっきりと発言できないことがありますか）

	はい	いいえ	総計
男	38 名	191 名	229 名
	16.6%	83.4%	100.0%
女	19 名	194 名	213 名
	8.9%	91.1%	100.0%
総計	57 名	385 名	442 名
	12.9%	87.1%	100.0%

表 3 5 男女別の外出の状況（一人で外出することができますか）

	はい	いいえ	総計
男	213 名	16 名	229 名
	93.0%	7.0%	100.0%
女	198 名	15 名	213 名
	93.0%	7.0%	100.0%
総計	411 名	31 名	442 名
	93.0%	7.0%	100.0%

表 3 6 男女別の寝たきりの状況（日中のほとんどをベッドの上で過ごしていますか）

	はい	いいえ	総計
男	1 名	228 名	229 名
	0.4%	99.6%	100.0%
女	3 名	210 名	213 名
	1.4%	98.6%	100.0%
総計	4 名	438 名	442 名
	0.9%	99.1%	100.0%

表 3 7 男女別の居住形態

	夫婦二人	一人暮らし	介護施設	子供と同居	その他	総計
男	147 名	11 名	1 名	64 名	6 名	229 名
	64.2%	4.8%	0.4%	27.9%	2.6%	100.0%
女	96 名	49 名	2 名	63 名	3 名	213 名
	45.1%	23.0%	0.9%	29.6%	1.4%	100.0%
総計	243 名	60 名	3 名	127 名	9 名	442 名
	55.0%	13.6%	0.7%	28.7%	2.0%	100.0%



資料1 調査に使用した入力フォーム（Web 入力画面）

歯科健診入力フォーム 2023/11/30 10:15

●患者ID番号  (はがきに記載の番号)

●検査会場  検査センター  個人診療所  病院  施設  自宅  その他

●検査実施者名

●年齢  才 (0才~120才)

●性別  男  女  無回答

●地域  (47都道府県)

8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8
8	7	6	5	4	3	2	1	1	2	3	4	5	6	7	8

●歯の状態

●動揺度

咬合支持に機能していない。歯の状態を選択し、続けて動揺度を左から選択すると、次の歯へ移動します。「欠損」を選択の場合は、動揺度の入力は無く次の歯へ移動します。  
 動揺はあるが機能している。  
 動揺なし

訂正は該当歯をクリックして、再入力してください。

●根面う蝕の数  (0本~32本)

●口腔清掃状態  不良  普通  良好

●歯肉出血  あり  なし

●口腔乾燥  重度  軽度  なし

●問診

歯は何本ありますか?  (0本~32本)

義歯は使用していますか?  使用している  
 義歯を作製したが、使用していない  
 義歯を作製していない

口腔機能

半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか?  はい  いいえ

お茶や汁物等でむせることがありますか?  はい  いいえ

口の渇きが気になりますか?  はい  いいえ

普段の会話で、言葉をはっきりと発音できないことがありますか?  はい  いいえ

ADL

一人で外出することができますか?  はい  いいえ

日中のほとんどをベッドの上で過ごしていますか?  はい  いいえ

生活背景

居住形態  介護施設  一人暮らし  夫婦二人  子供と同居  その他

要介護度  介護を受けていない(自立)  要支援(1~2)  要介護(1~5)

資料2 調査協力依頼および調査協力申込書

<input type="checkbox"/>	<p style="text-align: center;">郵便往復はがき（往信）</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 5px; text-align: center;">                 柏郵便局                  料金別納                  郵便             </div> <div style="display: flex; gap: 5px;"> <input type="checkbox"/><input type="checkbox"/><input type="checkbox"/><input type="checkbox"/><input type="checkbox"/><input type="checkbox"/><input type="checkbox"/><input type="checkbox"/> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 20px;">                 柏市在住で今年80歳を迎える皆様に  <b>お口の健康診査と調査協力依頼</b>                  調査主催 公益財団法人 8020推進財団                  調査協力 一般社団法人 柏歯科医師会                  柏市             </p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <p>○調査に関するお問い合わせ                  8020推進財団                  電話 03-3512-8020(水・木 14:00~17:00)                  FAX 03-3511-7088(月~金 10:00~17:30)</p> <p>○通知に関するお問い合わせ                  柏市健康医療部高齢者支援課                  電話 04-7168-1996(月~金 8:30~17:15)</p> </div>	<p style="text-align: center;"><b>調査協力申込書</b></p> <p style="text-align: center;">私は、8020推進財団の歯科調査を申し込みます。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 20%;">氏名</td> <td style="text-align: right;">(男・女)</td> </tr> <tr> <td>住所</td> <td>柏市</td> </tr> <tr> <td>電話番号</td> <td></td> </tr> <tr> <td>生年月日</td> <td>昭和 19年      月      日</td> </tr> </table> <p style="text-align: center; margin-top: 5px;">調査日程（ご希望のところにとつて○をつけてください）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 5%;"></th> <th style="width: 95%;">日程・会場・方法等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td>6月13日(木)パレット柏(午前のみ・先着50名)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td>6月20日(木)柏中央保健センター(先着100名)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td>7月 4日(木)パレット柏(午前のみ・先着50名)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">○</td> <td>7月11日(木)アミュゼ柏(先着100名)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>市内歯科医院での調査 希望歯科医院名( ) ※柏歯科医師会会員歯科医院のみ対応可能</td> </tr> <tr> <td></td> <td>家庭訪問での調査(要介護等のかた・市内のみ)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>入所施設での調査(市内施設入所のかた) 入所施設名( )</td> </tr> </tbody> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">                 なお、今回の申し込みは希望調査ですので、返信後の協力取消は自由です。ご返信いただいた方には説明書と同意書を送付いたしますので、検診日当日における同意書の提出をもって正式な申し込みとします。             </p>	氏名	(男・女)	住所	柏市	電話番号		生年月日	昭和 19年      月      日		日程・会場・方法等	○	6月13日(木)パレット柏(午前のみ・先着50名)	○	6月20日(木)柏中央保健センター(先着100名)	○	7月 4日(木)パレット柏(午前のみ・先着50名)	○	7月11日(木)アミュゼ柏(先着100名)		市内歯科医院での調査 希望歯科医院名( ) ※柏歯科医師会会員歯科医院のみ対応可能		家庭訪問での調査(要介護等のかた・市内のみ)		入所施設での調査(市内施設入所のかた) 入所施設名( )	<input type="checkbox"/> FK 柏 市  571000C1J034 571000C1J034 <input type="checkbox"/>
氏名	(男・女)																										
住所	柏市																										
電話番号																											
生年月日	昭和 19年      月      日																										
	日程・会場・方法等																										
○	6月13日(木)パレット柏(午前のみ・先着50名)																										
○	6月20日(木)柏中央保健センター(先着100名)																										
○	7月 4日(木)パレット柏(午前のみ・先着50名)																										
○	7月11日(木)アミュゼ柏(先着100名)																										
	市内歯科医院での調査 希望歯科医院名( ) ※柏歯科医師会会員歯科医院のみ対応可能																										
	家庭訪問での調査(要介護等のかた・市内のみ)																										
	入所施設での調査(市内施設入所のかた) 入所施設名( )																										

資料3 申し込みはがきの返信状況（単位：名）

	実際の受診者数	申込数
検査センター	165	282
個人診療所	262	350
病院	4	0
施設	4	2
自宅	7	7
その他	0	0
合計	442	635

資料4 各検査センター会場ごとの割り振り状況および健診医の出動数

日程 会場	6/13 パレット柏	6/20 保健センター		7/4 パレット柏	7/11 アミュゼ柏	
時間	9時～12時	9時～12時	13時～16時	9時～12時	9時～12時	13時～16時
申込数 (案内送付)	60名	40名	45名	32名	49名	56名
申込数 (往復はがき)	94名	85名		32名	35名	
動員歯科 医師数	5名	8名	8名	8名	8名	7名

※7/11 は、希望者に加えて、6/13 先着漏れ、非調査協力歯科医院（非会員・協力お断り）を希望した方の割り振り分を含める。